

2023 年度第 3 回 外洋常任委員会 議事録

1. 開催日；2023 年 9 月 1 日（金）18:00～19:45
2. 会議の場所及び方法：会場と ZOOM による WEB 形式併用

会場：JSAF 事務局（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階）

出席者：（理事） 馬場会長（開会時挨拶）

中澤信夫 副会長、中村隆 副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、
鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、沼田浩行 理事、
船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、坂口城治 通信委員長、
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員長

坂谷定生 参与

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

議事

大村常務理事の進行で 18：00 より開始した。

議事に入る前に馬場会長より以下の挨拶があった。

7 月 21 日～23 日に石川理事の案内のもとに、大村常務、船澤理事と一緒に函館
と小樽のヨットクラブを訪問し、ヨットクラブや加盟団体の皆さんと懇談を重ね現
状をよく知ることが出来た。

JSAF とヨットクラブとの温度差があることや新しいことが分かった。

現場に行ってお客さんと膝を突き合わせ、問題点を聞くのは価値のあることと認識し
た。

今後は 11 月後半に東北を回り、最後には沖縄まで回りたいと考えている。

丁寧に一か所ずつ回っていきたい。

9 月 30 日の団体長会議にも参加して懇親を深めたいと思っており、中村副会長も
参加の予定。

新型コロナは完全には終息していないが、色々なところで普通の生活に戻ってきて

おり、外洋レースも盛んになってきた。

私もパールレース、石廊崎レース、そしてトランス相模レースに参加した。

外洋レースは醍醐味があり非常に面白く楽しい。これからもレース活動をしていきたいと考えているので、その場でも皆さんと懇親を深めていきたい。

ディンギーでは先月オランダのハーグで行われたワールドカップで、岡田、吉岡組が470で金メダル、そして磯崎、関組が銅メダルを取る快挙を成し遂げてくれた。ディンギーの国別対抗で日本がトップとなり、ネーションズトロフィーを日本で初めて獲得した。2位はスペイン、3位はドイツであった。

パラワールドではハンザ303級で丹羽選手が銀メダルを獲得した。

来年7月のオリンピックでの日本チームのメダル獲得の可能性が高くなってきた。メダルを獲得することにより、セーリングの素晴らしさを全国の国民に知ってもらおうと共に、スポンサーや様々なところでセーリングの素晴らしさを再確認する機会になると思うので、JSAFとしてはオリンピックセーラーに支援をしていきたい。今後も明るく、楽しく、前向きにやっていきたいので宜しくお願いする。

(馬場会長退席)

(1) 報告事項

・体験乗船について（国土交通省等との協議結果）

大村：体験乗船について国交省の海事局と日本小型船舶機構と調整した結果について資料を纏めた。これらに基づいて9月7日に海上保安庁と調整し、その後に海上保安庁から全国に連絡して頂こうと考えている。

ヨットで体験乗船を行おうとすると最近、保安庁の保安部から体験乗船の実習生は旅客なので旅客定員が必要と言われ、知床の事故以降厳しくなっている。平成15年にJSAFで作成したガイドラインを見せても、JSAFの内部文書である、と言われるケースがあるので今回調整した。

結論としては資料の通り、「ヨットの体験乗船の実習生が一般クルーの交代要員となる場合は船員とすることが出来る。」ということが確認された。

ヨットの場合船検証には、殆どが旅客ゼロで船員のみの人数が記載されている。体験乗船の乗船者がロープを引いたりして、操船に携わるのであれば船員となるので旅客には該当しない、ということが国交省の通達にも記載されている。

鈴木（祥）：ディンギーの場合も対象か。

大村：保安庁が対象としているのはエンジンがついている小型船舶が対象であり、ディンギーは対象外であるが、資料の運行基準は参考になると思われる。

地元の官公庁とトラブルが無いように進めて頂きたい。

- ・外洋団体長会議（9月30日）について

大村：馬場会長、中澤副会長、中村副会長も参加する。

JSAFからの報告、委員会及び団体からの報告を行い、意見交換をする予定。

委員会や理事からの説明資料は9月21日までに提出して頂きたい。

理事改選についても意見の交換をしたい。

団体長会議の後に事務局長会議を行う。

石川：昼の会議と夜の懇親会の準備を進めているので全国からの参加をお願いする。

- ・馬場会長のヨットクラブ回りについて

船澤：ヨットクラブ回りの趣旨は普及を主眼においている。

海外のヨットクラブのようにヨットクラブと一緒に子供たちを育てる環境を作る必要があると考え、全国のヨットクラブを回って意見交換をしながらJSAFに何ができるのかを考えたい。

函館を訪問したところ、いろいろな取り組みをされていることが分かり、参考になった。

ワールドセーリングからヨットを始める時のインストラクター用のガイドブックと生徒用のパーソナルブックがリリースされ、鈴木理事に翻訳をして頂き全国に配布する準備をしている。

続いて鈴木理事より、ガイドブックとパーソナルブックの内容の概略が説明された。

- ・ヨットクラブ回り（北海道）報告

石川：馬場会長の挨拶にあったように7月21日～23日にかけて行われ、初日に私が所属する南北海道外洋帆走協会のクラブハウスに馬場会長、大村常務、船澤理事に訪問頂いた。副理事長、大学の顧問、学生も参加した。

そこでワールドセーリングのテキストの紹介をしたところ、学生からはクラブに外国人も多いので英語バージョンも配布して欲しいとの要望があった。

他の学生からは、小さい頃のヨットに乗せてもらった思い出が大きくて大学に入ってからヨットクラブに入って活動しており、今後は部員の拡大に努めたい。との話があった。

2日目は小樽を訪ねてマリンウェーブの広田会長の艇上で意見交換を行った。

- ・パールレースの報告

坂谷：今回で64回となるが59回までは1回しか中止が無かった。

しかし、2018 年、2019 年は台風で中止、2020 年 2021 年はコロナで中止、
昨年は開催したが前夜祭は無しで不完全な形であった。今回は完全復活の開催
となり沢山の参加があった。

JSAF、外洋湘南、外洋東海の 3 者の共同主催で 7 月 27 日～30 日に五か所湾か
ら江の島のコースで開催された。

参加艇は IRC クラスが 46 艇、ダブルハンドクラスが 8 艇であった。

結果は、総合優勝は馬場会長のサマーガール、2 位がアオバ、3 位がドラコニス。
ファーストホームはドラコニスであった。

事故も無く順調なレースであった。

- ・エネオスの事業について

船澤：エネオスから提供して頂いているプロジェクトは、セーリングを始める機
会の創出、次世代育成を通じた心身共に健全な社会作り、安全にスポーツに取り
組める環境作り等、セーリング界の発展への取り組みをするヨットクラブ、ジュ
ニアを含めたセーリングクラブやクラス協会等の団体を称える賞を創設する。
ヨットクラブの取り組みを活性化させることがセーリング界にとって重要なこ
とと考え、エネオスから承諾を得て進める。賞の内容については資料のような部
門を考えているが、皆さんの意見を聞きたい。

表彰対象のクラス協会やヨットクラブを 11 月末まで募集して選考する。

選考メンバーについては今後集める。

外洋加盟団体や都道府県連盟は表彰する側と考え今回はノミネートの対象外と
している。

国際大会等準備委員会で進めることになっているが、現在委員がいな
いので募集中。手伝っていただける方には是非お願いをしたい。

大村：JSAF 表彰との整理を総務委員会から求められる可能性がある。

会員のいないクラブも表彰するのか、またエネオスからサポートを受けられな
くなった場合も考えて総務委員会と整理する必要があると考える。

船澤：エネオスからは少なくとも 2 年はサポートを受けられることになっている
が、その先も継続してサポートが受けられるように考えたい。

- ・理事改選関係検討の状況（水域理事、選挙理事、外部理事）

大村常務理事より、理事の選出規則の改定案が説明され意見を求めた。

坂谷：水域理事の選出が 8 ブロックに分けられているが外洋と県連が一緒のブロ
ックになり、そのブロック枠で人数を決める選出方法か。

大村：ブロックで 2 名の場合は男女 1 名ずつを選出し、1 名のブロックについて

はブロック内で調整することになると考える。

区割りについては明日の理事会で発表されるが、ほぼ評議員の水域に近い。

坂谷：この案は修正の余地はあるのか。

大村：理事会には協議事項で出されているので、特に水域に関しては意見を出して頂きたい。

続いて大村常務より、理事と評議員の選出の日程が説明された。

(2) 各理事・委員会、各水域報告

・委員会報告

(外洋安全委員会)

平出：今年の夏のシーズンのレースでは事故報告はなかった。

9月に安全週間を予定しており、近日中にアナウンスをする。

外洋特別規定が年末に改定される見込みであるが、ドラフトが8月22日の日付でワールドセーリングのウェブサイトにはアップされたので、中身の確認作業をして改定に向けて準備をしている。

(外洋計測委員会)

川合：円安でIRC、ORC共に予定以上にレヴィーが高くなってきている。

更に円安が続くと来年の証書発行は値上げを考えざるを得ない状況である。

今年度は値上げをしたので、2年連続の値上げは避けたい。

(通信委員会)

坂口：次回以降の小笠原レース等の長距離レースのトラッキングシステムの調査を続けている。

総務省より無線局を維持している団体について、その団体が、日本人が多数を占めていることを証明しなければならない法律が夏前に成立したことの連絡があり、JSAFも理事の国籍を証明するために戸籍抄本の写しもしくはパスポートの写しを10月末までに提出する必要がある、寺澤事務局長と案内の準備を進めている。

(ルール委員会外洋規則小委員会)

日下部：裁量ペナルティーと外洋規則2009についてルールと重複するところがあるので年内を目途に適用ルールの点検作業に入った。

クラブレースへの出向き支援については、ルール委員会として予算が確保できたのでトライアルとしてクラブレースの選定と計画の策定をしていく。

来年2月3日に福岡で開催される外洋合同委員会には多くの方の参加を頂きたい。

・水域報告

(北海道・東北)

石川：外洋北海道はシリーズレースが5月から始っており参加艇数は少ないが、問題なく開催できている。第51回の祝津カップを9月第1日曜日に開催する。外洋津軽海峡の第36回津軽海峡横断ヨットレースはIRCクラス11艇、オープンクラス3艇で開催され、東京からも応援のクルーが参加して大いに盛り上がったが、表彰式でクラスターが発生し、約120人の内7割がコロナに感染した。幸い重傷者は出なかった。

8月の第1週に第1回ねぶた祭レースを開催した。

第32回のエンレムカップは5艇の参加があった。

外洋いわきでは8月5日に福島県スポーツキッズセーリング体験プログラムにクルーザーを出して協力した。

クルーザーの数が少ないのでまだレースが開催ができない状況とのことである。

(関東)

井上：レースは全て予定通りに行われているところが多いが、台風でクラブレース等が中止になったケースがあった。コロナ関係で中止になったところはない。水域理事の選出方法については、関東外洋団体の事務局と会長には知らせて意見を出して頂くようお願いしたが、外洋三崎以外からはまだ頂いていない。

女性はあるが内容が分からないとか、出たがらないというのが現状。

ディンギー系とはまだ連絡は取れていない。

(中部)

坂谷：5月のエリカカップ、7月のパールレース、先日ラグーナでデニスコナーカップレースを開催。10月末からシリーズレースの最終レースである、東海チャンピオンシップレースを3日間開催してレースは終了となる。

今年は順調にレースが開催できていると感じている。

(九州・沖縄)

沼田理事が途中退席のため、事前に提出していた報告書は以下の通り。

各水域とも、おおよそ予定していたレースを開催してコロナ禍前の活況を取り戻しており、沖縄では6月に座間味レースを開催し、10月には与那原レースを予定している。

南九州では、5月の種子島カップ、6月にZEN'S スマイルカップ、7月には三島カップを開催、9月にはメインパークカップを予定している。

玄海では、毎月博多ヨットクラブと共催レースを開催、9月にはODO CUP、壱岐レースを予定している。

(3) その他

- ・明日の理事会報告

大村常務理事より、明日の理事会の議題の概略内容が説明された。

- ・次回常任委員会

大村常務理事より団体長会議までに予定していた次回常任委員会を、委員会や団体からの資料を21日までに事務局に送ることにして、中止にすることが提案され了承された。

- ・その他

中澤副会長より、「MIRAI」でダブルハンド世界一周レースに参加して完走し、総合3位になった鈴木、中川選手にWEBで団体長会議に参加してもらい、経験談を聞く時間を設けたい、との提案がされ承認された。

岩瀬理事より、体験乗船で空港一周を行おうとしたところ、前例がない作業届の提出を保安庁から要請された、との報告があった。

中澤副会長の閉会の言葉で19：45に閉会となった。

以上